

標 題 : Metabolic disposition and biological significance of simple phenols of dietary origin: hydroxytyrosol and tyrosol  
食事由来の単純フェノールの代謝動態および生物学的意義 :  
ヒドロキシチロソールおよびチロソール

---

著 者 : J. Rodríguez-Morató, et al. (スペイン IMIM (Hospital Del Mar Research Institute) 統合薬理学・システム神経科学科)

---

掲 載 誌 : Drug Metab. Rev. 2016 May; 48(2): 218-236

---

要 旨 :

ヒドロキシチロソールおよびチロソールは食事性のフェノール化合物であり、バージンオリーブ油およびワイン中に存在する。

両者の化合物はまた、それぞれドーパミンおよびチラミンの代謝の副産物として体内で内因性に合成される。

ここ数十年にわたって、ヒドロキシチロソールおよびチロソールの研究が関心を増したのは、これらの化合物がある種の病変(例、心臓血管系、代謝、神経変性の疾患およびがん)の予防で演じる可能性がある役割のためである。

有望な *in vitro* および *in vivo* の生物学的作用の前臨床研究からヒトの疾患予防状況への変換は、摂取された投与量が作用部位で利用可能となるかどうかで決まる。

これに関して、ヒドロキシチロソールおよびチロソールの生体利用効率および代謝動態に関する情報は、ヒトの健康に対して示す影響の可能性を評価するために最も重要である。

この総説で、ヒドロキシチロソールとチロソールの両方の吸収、分布、代謝および排泄のプロセスに関する最先端の科学的証拠を、我々は考察して要約する。

我々はまた、生物学的活性に対するこれらの化合物およびその代謝物の影響を健康的な有効性の観点から調べた。

最後に、ヒドロキシチロソール、チロソールおよびその代謝物の血漿中および尿中の値を測定するために開発された各種の分析手法を、我々は評価した。

キーワード : ヒドロキシチロソール、地中海食事、心臓血管系予防、ドーパミン、エタノール、フェノール化合物、赤ワイン、チロソール、バージンオリーブ油

---